

平成 30 年度  
拓殖大学地域連携センター事業  
教員事業報告書



1. 内閣府地方創生推進室事業「地方と東京圏の大学生対流促進事業」

実施期日：①平成30年 8月 2日 (木)  
②平成30年 8月10日 (金)  
③平成30年10月 6日 (土)  
④平成30年11月18日 (日) ～19日 (月)  
⑤平成30年12月22日 (土) ～24日 (月)  
⑥平成31年 2月 4日 (月)  
⑦平成31年 2月 8日 (金)  
⑧平成31年 2月27日 (水)  
⑨平成31年 3月 4日 (月)

< 1 頁 >

2. 「高尾登山電鉄株式会社社員英会話スクールのサポート」

実施期日：①平成30年 4月1日 (火) ～ 6月19日 (火)  
②平成30年10月2日 (火) ～12月11日 (火)

< 4 頁 >

3. 「山梨県：富士川町における郷土料理（“みみ”）を活用した

地域ブランド創生プロジェクト」

実施日：①平成30年 7月30日 (月) ～31日 (火)  
②平成30年11月10日 (土) ～11日 (日)  
③平成30年12月11日 (火)  
④平成30年12月13日 (木)  
⑤平成30年12月22日 (土) ～23日 (日)

< 5 頁 >

4. 「長野県小諸市

：地域スポーツを活用したまちづくり（高地トレーニング）」

実施日：平成30年 9月2日 (日) ～4日 (火)

< 9 頁 >

5. 「長野県：鹿教湯温泉フィールドサーベイ（魅力発見プロジェクト）」

実施日：平成30年12月 9日 (日) ～10日 (月)

< 11 頁 >

6. 「長野県塩尻市街づくり関係者との情報交換会」

実施日：平成31年 1月24日 (木)

< 14 頁 >

7. 「岐阜県：美濃和紙あかりアート展実行委員会への感謝状贈呈」

実施日：平成31年 3月18日 (月)

< 15 頁 >

8. 本学の地域連携・地域貢献に関わる協定・覚書一覧

< 16 頁 >

拓殖大学地域連携センター（八王子事務部）  
平成31年4月22日

○「拓殖大学地域連携センター」について

本学の教育・研究成果の知を基盤として国内外の地域社会との交流及び活性化に貢献すること、また、学外諸機関とも連携して学生の実践的学修に資することを目的として、平成30年4月1日に八王子国際キャンパスに設置致しました。

尚、同センターの主な事業は、下記の通りです。

1. 地域社会及び学外諸機関との連携・交流・協働に係る活動の推進に関する事項
2. 地域社会及び学外諸機関との連携に係る協定作業に関する事項
3. 地域社会の課題等についての調査・研究に関する事項
4. センターの情報発信に関する事項
5. その他センターの目的を達成するために有益な事項

☆地域連携センター会議委員（平成30年度）

1. センター長		川名 明夫
2. 副センター長	常務理事	河田昌一郎
3. 副センター長	副学長	山田 政通
4. 委員	商学部准教授	松橋 崇史
5. "	政経学部教授	山本 尚史
6. "	外国語学部准教授	関口 美幸
7. "	外国語学部准教授	藤本 淳史
8. "	工学部准教授	工藤 芳彰
9. "	工学部准教授	永見 豊
10. "	国際学部教授	竹下 正哲
11. "	国際学部教授	徳永 達己
12. "	八王子事務部長	鶴木 則夫（事務統括）
13. "	八王子総務課長	上條 聡視（事務担当）
14. "	八王子学務課長	峯 太加志（教学関係担当）
15. "	八王子学生支援室長	野村 貴（学生関係担当）

以上

◆事務局：八王子事務部

平成30年度 地域連携センター事業（教員事業）報告書

－ 内閣府地方創生推進室事業「地方と東京圏の大学生対流促進事業」 －

■事業名 「Mirai プロジェクト」を中心としたやまなしキャリアデザインの推進

■事業期間 平成30年度から4年間（ただし、補助期間は2年間）

■事業関係教員 デイビッド・プルーカ准教授（商学部）③

工藤芳彰准教授（工学部）②、④、⑧

永見 豊准教授（工学部）②、④

竹下正哲教授（国際学部）⑤、⑨

徳永達己教授（国際学部）①、②、③、④、⑤、⑥、⑦

■実施期日 ①平成30年 8月 2日（木）

②平成30年 8月10日（金）

③平成30年10月 6日（土）

④平成30年11月18日（日）～19日（月）

⑤平成30年12月22日（土）～24日（月）

⑥平成31年 2月 4日（月）

⑦平成31年 2月 8日（金）

⑧平成31年 2月27日（水）

⑨平成31年 3月 4日（月）

■参加学生 ①国際学部国際学科

1年生2名、2年生10名、3年生2名

②国際学部国際学科

2年生6名、3年生1名

③商学部経営学科

3年生2名、4年生5名

商学部国際ビジネス学科

2年生1名、3年生12名、4年生8名

国際学部国際学科

1年生7名、2年生9名、大学院（国）1年生1名

④工学部デザイン学科

3年生9名、4年生8名、大学院（工）1年生1名

⑤国際学部国際学科

1年生17名、2年生12名、3年生3名、4年生2名

⑥国際学部国際学科

1年生7名、2年生8名、3年生1名、受託留学生2名

⑦国際学部2年生1名、3年生2名、4年生2名

⑧学生同行なし

⑨国際学部国際学科

1年生5名、2年生5名、3年生15名

※延べ参加人数名

商学部2年生1名、3年生14名、4年生13名

工学部3年生9名、4年生8名

大学院（工）1年生1名

国際学部1年生38名、2年生51名、3年生24名、4年生4名

大学院（国）1年生1名

受託留学生（国）2名

■事業概要

本学の国際協力、観光、農業、デザインなどの教育プログラムに山梨県立大学の学生が参加し、山梨県立大学が県内各地で地域の課題を解決するインターンシッププログラムに拓殖大学の学生が参加するというものです。

■実施体制

(1) 責任大学 山梨県立大学

(2) 協働大学 拓殖大学

(3) 地方公共団体等 公益財団法人山梨総合研究所 山梨県 甲府市他

■事業内容

①「やまなし未来計画」への参加（地元企業と学生の交流会）

②「やまなし未来計画」への参加（地元企業と学生の交流会）

③「英語によるグリーンビジネス研修」（稲刈り）

④「Mirai プロジェクト」実施予定地域の調査見学

⑤「山梨県立大学主催：CASA Prisma1222」への参加

「山梨県立大学杉山歩特任准教授ゼミナール」への参加

「現地視察」

⑥「山梨県富士川町（郷土料理みみ）」現地視察

⑦「山梨県富士川町（郷土料理みみ）」現地視察

- ⑧ 「Mirai プロジェクト」を主題とした「プロジェクト演習」成果報告書作成のための現地写真撮影
- ⑨ 「山梨県と東京都の農産物（山梨県：ブドウ、モモ、東京都：野菜）  
海外輸出プロジェクト構築へ向けた現地調査・懇談」

■ 事業風景



■事業名「高尾登山電鉄株式会社社員英会話スクールのサポート」

■事業責任者 小島和枝講師（政経学部）

- 実施期日 ①平成30年 4月1日（火）～ 6月19日（火）：週1回  
②平成30年10月2日（火）～12月11日（火）：週1回

■事業内容

高尾山（東京都八王子市）でケーブルカー等を運営する高尾登山電鉄株式会社から依頼を受けて、同社社員への英会話研修（初級編）のサポートを実施しました。

この英会話研修の実施にあたり本学から小島和枝講師（政経学部）を派遣して、近年当地への外国人観光客が急増していること、また、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックも見据えて社員の業務に役立つ英語力強化を目的に1グループ社員15名が参加し、毎回90分で研修が実施されました。

☆小島和枝講師

略歴：本学外国語学部英米語学科卒業

英国 University of York 大学院人文学科（女性学研究科）博士課程修了 博士（人文学）2014年7月

英国 University of Edinburgh 大学院教育学部修士課程修了 修士（教育学）2017年11月

★高尾登山電鉄株式会社

代表者：船江栄次 取締役社長

事業概要：鋼索鉄道（ケーブルカー）、特殊索道（二人乗り観光リフト）による旅客運輸事業並びに高尾山上において、食堂、高尾山さる園・野草園を経営。また、不動産の賃貸事業を行っている。

本社所在地：東京都八王子市高尾町

■今後の活動

同社より研修成果について高評価を頂き、平成31年度は2グループ、週2回での継続した実施が予定されている。

## 平成30年度 地域連携センター事業（教員事業）報告書

- 事業名 「富士川町における郷土料理（“みみ”）を活用した  
地域ブランド創生プロジェクト」
- 協定名 山梨県巨摩郡富士川町「包括協定」（平成29年9月24日締結）
- 事業責任者 徳永達己教授（国際学部・地域連携センター会議委員）
- 実施期日 ①平成30年 7月30日（月）～31日（火）  
②平成30年11月10日（土）～11日（日）  
③平成30年12月11日（火）  
④平成30年12月13日（木）  
⑤平成30年12月22日（土）～23日（日）
- 参加学生 ①国際学部国際学科2年生 3名、3年生2名  
②国際学部国際学科2年生10名、3年生3名、4年生 8名  
③国際学部国際学科2年生 1名、3年生1名、4年生 1名  
④国際学部国際学科2年生 0名、3年生1名、4年生 2名  
⑤国際学部国際学科2年生 2名、3年生1名、4年生 2名  
※延べ参加人数37名：2年生16名、3年生8名、4年生13名

### ■事業概要

徳永ゼミナールは、様々なまちづくりの活動を通じて、インフラ開発や地方創生の方法について学んでいる。

活動にあたっては、学生と地域住民との交流を通じて、地域の特徴を活かしたブランド化戦略の確立方策について検証を行う。

地方創生に関しては、これまで空き家を利用した山梨県南巨摩郡富士川町への地方活性化に向けて様々な調査の研究・発表を行ってきた。本プロジェクトは、昨年度（2017年度）の「学生チャレンジ企画」に採択されたものであり、本年度も継続して活動を行い、富士川町の魅力を発信する手段の一つとして郷土料理”みみ”の普及、商品開発化を進めていくものである。

また、山梨県富士川町で毎年開催されている、甲州富士川まつりにおけるワールドグルメフェスティバルへの出店を毎年行っており、本年も出店することを事業活動の一つとする。国際学部の特色を活かしたエスニック料理（インドネシア）を出店することで、甲州富士川まつりの活性化を図り、富士川町全体の活性化へとつなげる。

## ■事業目的

本プロジェクトは、日本が抱える深刻な問題の一つである、人口減少地域における地方創生に向けた貢献策の一つとして、地域の魅力を活かしたブランド化のあり方について検証することをゼミ活動の事業目的とする。

普段、対象地である富士川町に住んでいる方々にとって、当たり前にならされている”みみ”を、町外へ発信することは、富士川町をはじめ拓殖大学のPRにも大きく繋がることが期待される。

さらに、将来的には富士川町の道の駅「ふじかわ」、拓殖大学の学食販売、首都圏の主要駅での物産展にて販売することも長期的な目標として設定し、活動を実施している。

なお、本プロジェクトは、昨年度（2017年度）より協働して活動に取り組んでいる永見豊准教授、および工藤 芳彰准教授が指導している工学部デザイン学科の学生とも協力して実施する。

## ■事業内容

本プロジェクトは、昨年度の「学生チャレンジ企画」に採択された内容のものであり、本年度も継続して活動を行い、富士川町の魅力を発信する手段の一つとして郷土料理”みみ”の普及、商品開発化を進めていくものである。

また、ゼミでは12月22日～23日にかけて、「ダイヤモンド富士を見る人々へ、郷土料理”みみ”を振る舞いたい！」と題する活動を行った。同活動は、山梨県立大学と協力し、ダイヤモンド富士にて郷土料理”みみ”の試食会を開催したものである。

当日は、冬至の山梨県高下（たかおり）地区で見られるダイヤモンド富士（富士山の山頂から日が昇り、ダイヤモンドのような輝きを放つ様）を見に来る人々約100名に対して、”みみ”を配り、地域の方々や現地の訪問者より好評を得た。

さらに、来年度（2019年度）からゼミで活動する現1年生にも、本プロジェクトの理解を深め、まちづくり活動の具体的な構想提案を容易にするため、実際に富士川町を訪問する機会を設けた。

1月は、富士川町の郷土料理である”みみ”を使った町づくり活動を行っていることから、まずは「つくたべかん」を訪問し、1年生を対象に”みみ”づくりの指導を行った。

さらに、富士川町出身である山梨県立大学の教授の杉山先生にも富士川町の訪問に同行してもらい、地域住民との意見交換も行った。これにより、山梨県立大との連携を進めるとともに、富士川町の魅力についても説明を受けた。来年度ゼミに配属予定の1年生はこれにより本活動の内容について理解

を深め、現地の人との関係も繋ぐことが可能となり、今後の活動にも資する機会となった。

## ■事業成果

### 1. 本活動により期待される成果

#### ●富士川町のメリット

- ①町外ではみみに対する知名度は低いが、認知度が広がる。
- ②食文化の継承。
- ③町を知ることによりほかの特産品の知名度も向上する。
- ④新たな名産品が生まれる。
- ⑤経済効果により発展に活かすことができる。

以上の効果から富士川町の特徴を活かした地域ブランドの確立を図る。

#### ●学生のメリット

- ①拓殖大学の学生と富士川町民同士で交流を通して地方の現状を学ぶ。
- ②伝統料理を知ること自分たちの地域の伝統料理に対しても関心が高まる。
- ③町民や行政を含めた企画の設計・運営という経験ができる。

#### ●大学側のメリット

- ①富士川町に大学を知ってもらうことで、地域との新たなネットワークができる。
- ②学生が主体となってプロジェクトを成功させることができれば、拓殖大学の知名度が上がる。
- ③大学が掲げる「教育ルネサンスのグランドデザイン」が達成される。

### 2. 活動により達成された成果

本活動は、上述した成果に対して一定の貢献を果たしたと考える。加えて、次のような成果を達成した。

- ①富士川町、拓殖大学、そして山梨県立大学の3者の協働作業を実施することにより、産学連携の取り組み方策について検討する契機となった。
- ②参加した関係者間ネットワークの強化が図られた。
- ③下述するまちづくりの課題が明らかになり、今後取り組むべき活動方策が明確になった。

## ■今後の課題

### ①活動拠点の機能整備

活動の効果的実施を支援するため、2019年3月、富士川町役場は、学生の活動拠点として南別館庁舎の部屋を貸与してくれることになった。広さは35

m<sup>2</sup>であり、今後は活動の計画策定や地域住民との打ち合わせスペースとして有効活用していきたい。このため、室内の清掃・片付けを行い、必要な備品を備えるなど、スペースの有効活用に努めていきたい。将来的には同施設を使って、定期的な活動報告会を開催するなどの利用について検討する必要がある。

### ②活動の広報活動の充実

SNS、成果報告書などを活用し、様々な媒体を通じて、本活動の情報を学内外にさらに発信していきたい。

### ③参加者と後継者の育成

学内および地域の参加者を増やしていきたい。特に学生は、1年毎に入れ替わることから、後継者の確保が重要になる。本活動の趣意を十分理解した優秀な学生の確保と育成に努める必要がある。

## ■事業風景



## 平成30年度 地域連携センター事業（教員事業）報告書

■事業名 「長野県小諸市  
：地域スポーツを活用したまちづくり（高地トレーニング）」

■協定名 なし

■事業責任者 松橋崇史准教授（商学部・地域連携センター会議委員）

■実施期日 平成30年9月2日（日）～4日（火）

■参加学生 商学部経営学科2年生3名、3年生13名

### ■事業概要

長野県小諸市は標高700メートル前後に位置し、北部には標高2000メートルの高峰高原を有する。こうした特徴を活かして小諸市ではアスリートの高地トレーニングのニーズに対応できるまちづくりを推進している。昨今では、トップチーム、トップアスリートに限らずアマチュアのトップ選手も高地トレーニングを志向し、趣味レベルの人々も観光を兼ねながら興味関心から高地トレーニングを実施する形で裾野が広がっている。本事業では、ゼミナールに所属する学生と共に関係団体に対してヒアリング調査を実施し、政策提言を試みる中で、学生・地域双方に学びとなるような形で進めると共に、今後の連携方法について検討することにした。

### ■事業目的

少子高齢化が進む地域にとって、自らの地域の情報発信を進め、ブランド力を高めることは非常に重要な課題となる。より多くの人々に認知してもらうことで交流人口を増やし、ファンを増やすことで関係人口の増加につながる。それが推進される中で関連するビジネスが育ち、移住者の増加に結び付く。当然ながら、自治体や商工会としてもこうした条件を利用しながら地方創生に向けた方策を検討しており、進めている。ヒアリング調査やミーティングでは、その一連の取り組みを把握すると共に、学生ならではの視線からのアイディアの提供を試みた。

### ■事業内容

ヒアリング調査等の事業内容は以下の通りである。

初日は高峰高原のビジターセンターを訪問し昼食をとると共にランニング

コース周辺の宿泊施設等を見て回った。その後、標高 1000 メートルと 2000 メートルにあるコースで試走を行った。学生の多くは運動部に所属している学生であり、普段のランニングとの違いなどに気づきがあったようである。ヒアリング調査では、高地トレーニングの活動を主体的に推進している商工会の副会頭にヒアリング調査を実施した。

2 日目は、小諸市役所の関係者にヒアリング調査を実施し、自治体としてどのように活動を支援しているのか把握した。2 日目の午後は、教育施設として整備された宿泊施設周辺のハイキングコースについて視察を行った。

#### ○フィールドワーク、調査スケジュール

9 月 2 日現地前入り

9 月 3 日

9 時	小諸市役所 調査事前打ち合わせ
10 時 30 分頃	学生合流 市役所訪問
12 時	高峰高原で昼食・フィールドワーク
13 時 30 分	2000 メートルコース試走
14 時 30 分	1000 メートルコース試走
16 時	ヒアリング調査
18 時	宿到着
21 時	就寝

9 月 4 日

7 時	朝食
9 時	研修設備で学生の前日調査の振り返り
11 時	ヒアリング
13 時以降	宿泊施設近くの施設でアクティビティ
17 時	学生解散 小諸市役所職員との調査振り返り

#### ■事業成果

高地トレーニングの鉄則はリビングハイ、トレーニングロウ（標高が高い場所に滞在し、標高が低い場所でトレーニングを行う）だとされている。高峰高原が立地する標高 2000 メートルに複数の宿泊施設が存在し、標高 1000 メートルにトレーニング施設があることから高地トレーニングに適した条件を有する。山麓には医療機関も揃い、連携することによってより価値を生み出せる。問題は、そうした関連団体がいかにして連携していくのかということであり、商工会が中心的な役割を担っていること、自治体は関与しているものの極力民間主導で実施しようとしていることが把握できた。筆者（松橋）は全国各地のスポーツまちづくりの事例を把握しているため、その知見から

高地トレーニングにて成果をためる方策案をいくつか提示し、ディスカッションを行い、一定の知見を提供できた。参加した学生は、スポーツによるまちづくりの実際の動きに触れることができ大いに刺激を受け、継続的に調査を実施するグループは、秋学期の研究テーマに国内外の高地トレーニング地の実態と小諸との比較を行い、レポートにまとめ、夏の提言を整理した。

#### ■今後の課題

高地トレーニングの動向では、小諸市に隣接する東御市が行政主導で 1700 メートル地点に陸上競技場等を新設し、高地トレーニングの拠点を目指して活動を精力的に進めている。そうした拠点施設を有する東御市の隣で小諸市が特徴を出せる部分は、2000 メートルに 3 つの宿泊施設を有すること（こうした宿泊施設は東御市には無い）と 1000 メートルと 2000 メートルの両方にランニングコースを有することである。高地トレーニングのニーズが高い陸上長距離のトップチームを受け入れると共に、合宿オフシーズンにそのブランド力を用いて一般客を呼び込むことが重要になるだろう。ゼミナールの活動を通じて、高地トレーニングやスポーツまちづくりに関連する調査研究を行い、一定の成果がまとまった段階で、改めて情報交換などの機会を持っていきたい。

#### ■事業風景



■事業名「長野県：鹿教湯温泉フィールドサーベイ（魅力発見プロジェクト）」

■協定名 なし

■事業責任者 工藤芳彰准教授（工学部）

■実施期日 平成30年12月9日（日）～10日（月）

■参加学生 工学研究科情報・デザイン工学専攻1年 1名  
工学部デザイン学科3年生9名、4年生 9名

### ■事業概要

工学部デザイン学科工藤研究室と鹿教湯温泉観光協会との継続的な協働プロジェクトの一環として、学科学生グループ（3・4年生）による鹿教湯温泉地域のフィールドサーベイを実施し、地域資源について調査するとともに、その成果を踏まえた「信州鹿教湯温泉地域の魅力発見ハンドブック（初冬バージョン）」をデザインした。内容は、学生個々が発見した同地域の魅力を見開きページ上で表現したものである。同ハンドブックは平成31（令和元）年度に改良を加え、同観光協会の参考となる予定である。

### ■事業目的

本事業の目的は以下のとおりである。

- 1) 本学工学部デザイン学科学生のデザイン力による地域支援
- 2) 支援現場のフィールドサーベイをとおした学生のデザイン力向上
- 3) 包括連携協定の締結に向けた継続的事業の実施

### ■事業内容

鹿教湯温泉観光協会との新たな協働プロジェクトとして、2013年度「学生チャレンジ企画」奨励企画として取り組んだ「信州鹿教湯温泉地域の魅力発見ハンドブックのデザイン」の第二弾として、デザイン学生による当地フィールドサーベイを踏まえ、同ハンドブック（初冬バージョン）をデザインする。

### ■事業成果

鹿教湯温泉交流センターを拠点にフィールドサーベイ及び勉強会を実施し、

地域住民との交流を含め、調査資料を収集した。具体的には、鹿教湯温泉地域の歴史文化について詳しい斎藤厚志さん（宿泊先「いづみや旅館」代表）のガイドを頂き、温泉地としての歴史や文殊堂をはじめとする文化財、遊歩道などの整備事業について、現場を巡りつつレクチャーを受けた。加えて、鹿教湯 100 年ブランド創造プロジェクトの代表を務める斎藤宗治さん他、複数の鹿教湯温泉観光協会の関係者かつ地域住民から、当地に関する話題提供を頂いた。学生は自ら撮影した写真を含む、さまざまな資料を得るのみならず、フィールドサーベイ及び地域コミュニケーションの重要性を学ぶとともに、コミュニティにおいてデザインが果たす役割について理解を深めた。以上を踏まえ、帰校後にミーティング作業を重ね、当初の計画どおり、「信州鹿教湯温泉地域の魅力発見ハンドブック（初冬バージョン）」案をデザインした。内容は、学生個々が発見した同地域の魅力を見開きページ上で表現したものである。同ハンドブックは平成31（令和元）年度に改良を加え、同観光協会の参考となる予定である。

#### ■今後の課題

今年度の成果を踏まえ、鹿教湯温泉観光協会と協働し、実際の印刷物に昇華させていきたい。また、これまでの継続的な協働関係をさらに拡大・深化するべく、当地と本学の包括連携等の締結について、関係各所と相談していきたい。

#### ■事業風景



■事業名「長野県塩尻市街づくり関係者との情報交換会」

- 事業責任者 徳永達己教授（国際学部・地域連携センター会議委員）
- 参加者 金子春雄氏（塩尻市役所） 金子勝寿氏（塩尻市会議員）  
川邊 剛氏（箱根石油株式会社社長）  
小山 茂氏（八王子市役所市民活動推進部学園都市文化課）  
香川美仁教授（工学部） 前山利幸教授（工学部）  
武田晋一准教授（国際学部） 安藤智博（国際学部4年）  
鶴木則夫部長（八王子事務部） 上條聡視次長（八王子事務部）  
阿部一徳（八王子総務課） 荒川正彦（八王子総務課）

■実施期日 平成31年1月24日（木）

■事業内容

1. 金子春雄氏（塩尻市役所企画政策部 参事・CTO）  
「塩尻市が取り組んでいる ICT を使った街づくり事業の紹介」
2. 拓殖大学が取り組んでいるまちづくり、関連研究の紹介
  - (1) 前山利幸教授  
「産学連携研究センターの紹介と  
前山研究室が取り組む八王子市防災プロジェクト」
  - (2) 武田晋一准教授、徳永達己教授  
「科研費：地方創生に向けた  
住民参加型によるインフラ整備の有効性に関する検証」
  - (3) 安藤智博（国際学部4年）  
「山梨県富士川町郷土料理みみについての提案」
  - (4) 意見交換

■事業風景



■事業名 「岐阜県：美濃和紙あかりアート展実行委員会へ感謝状贈呈」

■事業責任者 山田政通副学長

（外国語学部・地域連携センター副センター長）

阿部眞理教授（工学部）

白石照美教授（工学部）

■実施期日 平成31年3月18日（日）

■事業内容

岐阜県美濃市役所に於いて山田政通副学長より美濃和紙あかりアート展実行委員会（田代智亜紀実行委員長）様へ感謝状を贈呈致しました。この贈呈の経緯は、工学部デザイン学科生活デザインコース学生の3、4年生を中心に平成15年より「美濃和紙あかりアート展」に毎年出展していますが、こうした実践教育の場を与えて頂いていること、また、永年の本学及び本学学生に対する教育支援に対して行われたものです。

尚、贈呈式には、武藤鉄弘美濃市長、且野隆晃美濃市観光協会副会長、池村周二同協会事務局長等が同席されました。

■事業風景



－ 本学の地域連携・地域貢献に関わる協定・覚書等一覧 －

1. 文京区「防災行政無線設備設置等に関する協定書」  
★締結日：平成2年（1990年）4月18日
2. 文京区「防災行政無線固定系受信装置の設置及び維持等  
に関する協定書」  
★締結日：平成2年（1990年）12月3日
3. 八王子学園都市大学「いちょう塾」への科目提供  
□平成16年（2004年）9月1日開学 ※23大学・短大
4. 公益社団法人「学術・文化・産業ネットワーク多摩」  
□平成17年（2005年）  
※正会員21大学、協賛会員5大学、他企業・機関
5. 文京区「災害時における相互協力に関する協定書」  
★締結日：平成17年（2005年）11月2日
6. 八王子市「公益避難場所に関する協定書」  
★締結日：平成18年（2006年）3月1日
7. 八王子市「災害時ボランティアに関する相互協力に関する協定書  
（災害時学生ボランティア派遣）」  
★締結日：平成18（2006年）4月1日
8. 東日本電信電話株式会社「土地使用に関する覚書（NTT 公衆電話設置）」  
★締結日：平成20年（2008年）11月21日
9. 「八王子大学コンソーシアム八王子」  
□平成21年（2009年）4月設立  
※単位互換制度（15大学：平成30年4月）
10. 八王子消防署「ヘリコプター緊急離発着に伴う  
追加施設の使用依頼・承諾書」  
★締結日：平成24年（2012年）7月6日  
★更新日：平成30年（2018年）7月1日：5年間

- 1 1. 岩手県釜石市「復興支援協定」  
★締結日：平成24（2012）年10月22日締結
- 1 2. 一般社団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会  
「大学連携協定」  
★締結日：平成26年（2014年）6月23日  
※オリンピック教育の推進・大会機運の醸成等
- 1 3. 高尾紅葉台自治会「高尾紅葉台自治会との災害時の相互協力に  
関する覚書」  
★締結日：平成27年（2015年）3月1日
- 1 4. 八王子市「包括連携に関する協定書」  
★締結日：平成29年（2017年）7月21日締結  
※地域活性化や地域課題の解決等
- 1 5. マイクロウェーブファクトリー株式会社  
「産学連携研究センターマイクロ波研究棟使用に関する覚書」  
★締結日：平成29年（2017年）7月28日
- 1 6. 高尾警察署「災害時ボランティアに関する覚書  
（災害時署内における補給業務の後方支援）」  
★締結日：平成29年（2017年）8月8日
- 1 7. JICA（独立行政法人国際協力機構）  
「ネパール・農業を通じた農村地域活性化プロジェクト覚書」  
★締結日：平成29（2017）年9月15日
- 1 8. 山梨県巨摩郡富士川町「包括協定」※地域活性化や地域課題の解決等  
★締結日：平成29（2017）年9月24日
- 1 9. 大塚警察署「災害及び防犯ボランティア等に関する協定」  
★締結日：平成29年（2017年）10月1日
- 2 0. 警視庁「大学生の防犯意識の向上、自主的な防犯活動の促進等、  
地域安全の改善に関する覚書」  
★締結日：平成29年（2017年）10月26日

21. 山梨県立大学、山梨総合研究所  
「山梨地域の活性化包括連携に関する協定書」  
★締結日：平成29年（2017年）1月7日
22. 東京医科大学八王子医療センター「災害時応援協定」  
★締結日：平成29年（2017年）11月17日
23. 東京都文京区「相互協力に関する協定」  
★締結日：平成30年（2018年）1月10日  
※学術研究成果の提供、人材交流、地域防災等
24. 大塚製薬株式会社「健康増進及びスポーツ振興に関する協定」  
★締結日：平成30年（2018年）1月25日
25. ANA ビジネスソリューション株式会社「教育連携協定」  
★締結日：平成30年（2018年）4月13日

以上

類